

実物投影機を 綾里小に贈る

カワセ精工と
大垣西濃信金

大垣西濃信用金庫は19日、金属部品加工業のカワセ精工(大垣市野口)が発行した地域貢献型私募債「絆」を活用し、同市綾野の綾里小学校に実物投影機1台を贈った。

企業の私募債発行により、同金庫が受け取る手数料の一部を使い、企業から指定された団体や学校に物品を寄贈する取り組み。同投影機は実験などで教員の

手元の様子をモニターに大きく映し出せるほか、児童が発表する際にも活用できるという。

贈呈式が同校であり、川瀬知哉社長が同金庫静里支店の長澤一支店長と共に伊藤務教頭に目録を手渡した。同校OBでもある川瀬社長は「地域社会に密着し貢献できる企業を目指している。思い入れの深い学校の役に立てば」とあいさつ。伊藤教頭は「『分かった』『できた』を子どもたちが実感できる授業づくりに生かしていきたい」と感謝した。(古家政徳)



伊藤務教頭(右)に目録を手渡した川瀬知哉社長(中央)と長澤一支店長。大垣市綾野町、綾里小学校